

## 消費者の6割が 食の安全に不安

### 畜肉や野菜など警戒強く

食品検査を手掛けるキューサイ分析研究所(福岡市、江畑賢一社長)は2日、食品の安全性に関する消費者の意識についての調査結果を発表した。

### キューサイ分析研が調査

日々の食品の安全性について「不安」「やや不安」と答えた人の割合は6割に上った。不安を感じる食品(複数回答)については畜肉(66%)、野菜(54%)のほか、複数の食材を組み合わせた「複合加工食品」(56%)の割合が高く、酒類(11%)など国産品が多い食品は比較的低かった。不安要素としては野菜の残留農薬や加工食品の食品添加物があった。

視する要素(複数回答)については、「鮮度が高いこと」(95%)、「国産であること」(90%)などを挙げる人が多く、1年前と比べた食事の習慣について「国産食品の購入が増えた」と答えた人も6割いた。

調査は昨年12月、インターネットを通じて実施。食品を週1回以上購入している624人から回答を得た。

## 食品国産志向 外食離れ 鮮明に

景気低迷を背景に消費者の節約志向が続く中、食品については安心感から国産を重視する傾向の強いことが2日、食品分析を手がけるキューサイ分析研究所(福岡市)の消費者意識調査で明らかになった。

昨年12月にインターネット

で実施し、全国の男女624人が答えた。食品の購買動向を尋ねたところ、90%が国産を重視すると回答。国産品なら価格が高くても許容する人は75%に上った。12%は「3

キューサイ分析研究所  
消費者調査

割以上高くても買いたい」と答えた。国産食品の購入割合を1年前と比べると、「増えた」「やや増えた」の計56%に対し、「減った」「やや減った」は計3%にとどまった。

また、1年前との食事のスタイルの変化を聞いた設問では、家庭での料理が「増えた」「やや増えた」が計46%に上り、外食離れ・内食化の傾向が改めて裏付けられた。